日本共産党
中央区議団ニュース

発　行
日本共産党中央区議会議員団
中央区築地１－１－１
中央区役所９階
TEL 3546-5563 FAX 3546-9570

おぐり智恵子

所属委員会
企画総務委員会、まちづくり・都市基盤対策特別委員会

奥村あきこ

所属委員会
区民文教委員会、感染症・防災等対策特別委員会

子どもから おとしよりまで 笑顔輝く中央区に

９００項目の予算要望提出

２０２３年が明けました。今年も、子どもからおとしよりまで、笑顔輝く中央区をめざしてがんばります。

２月には、今期最後の区議会定例会が開かれ、新年度予算の審議が行われます。

日本共産党中央区議会議員団は、12月23日、日頃区民のみなさんから寄せられている切実な要求などをまとめて、山本泰人区長に、全９００項目の「２０２３年度中央区予算編成に関する要望書」を提出しました。

予算要望を提出する日本共産党区議団。左から斎藤副区長、奥村あきこ・おぐり智恵子議員（2022年12月23日）

▼学校給食の無償化
▼値上げが予定されている国民健康保険料の引下げ

などを求めました（裏面参照）。

予算要望全文は、区議団ＨＰに掲載中です。←

みなさんのご意見、ご要望をお寄せください。

18歳までの医療費無料化実現 次は、学校給食の無償化を

区民のみなさんの長年の要求だった18歳までの医療費の無料化は、今年４月から実施となります。

私たち区議団は、２００６年に中学３年生まで対象を広げた医療費助成を、さらに18歳まで拡大するよう、繰り返し予算修正や条例提案を行ってきました。他会派が賛同せず何度も否決されてきましたが、ようやく昨年９月、23年度からの実施に向けた準備経費が計上され、４月から18歳まで医療費自己負担分が無料となります。

次は、学校給食の無償化をぜひ実現させましょう。

中央区も無償化「本格検討」

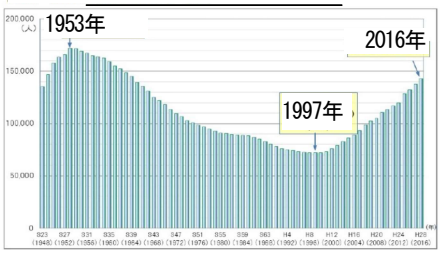
葛飾区に続いて、北区も新年度からの給食無償化を発表しました。

新聞報道では、中央区も学校給食無償化に向け「本格検討」していると報道されています。実現に力をあわせましょう。

中央区の定住人口は過去最多17万4,074人に

各年1月1日現在の定住人口は
昭和28年（1953年）＝１７万２，１８３人　が最大でした
令和　5年（2023年）＝１７万４，０７４人　70年ぶりに最大を更新

総人口の推移（1948～2016年）



▶1953年から44年間で17万人から7万人台まで減少した定住人口が、1997年から2023年の２６年間で17万人に回復しました。▶人口増加が急激だったため、保育園や学校の教室不足など、インフラ整備が追い付かない状況が続きました。

日本共産党中央区議団の 2023年度予算への緊急要望（抜粋）

◆**国民健康保険料の値上げ中止**　検討中の新年度の保険料は、一人当たり約６％の値上げです。一般会計から国保会計への繰入金を以前のように増やし、値上げを中止すること。

◆**男女の賃金格差の是正**　2023年3月に改定する「男女共同参画行動計画2023」をふまえ、男女平等にむけた実効ある施策の推進を図ること。今年から始まる男女別賃金の公表制度をいかして、賃金格差をはじめとしたジェンダーギャップを「見える化」し、格差をなくしていく施策を推進すること。

◆**情報公開手数料を無料に**　23区で有料なのは中央区だけとなっている情報公開手数料を無料にすること。

◆**補聴器購入費の助成の増額を**　現行は３万5000円上限の購入費助成を増額し、再購入の助成も実施すること。

◆**エアコン設置費の助成拡大を**　国の助成制度は新規に生活保護を受給する世帯に限定されているため、以前からの受給世帯や高齢者世帯、生活困窮世帯などに対しても助成を行うこと。電気代の補助も行うこと。

◆**学校給食費の無償化**　「義務教育は無償」と定めた憲法26条に即して、小中学校の学校給食を無償とすること。

なんでも
生活相談

3546-5563（区議団控室）
3551-6820（地区委員会）

無料
法律相談

毎月第３火曜日３時から
要予約　連絡先は同上

◆**学童クラブの設置**　児童館内だけでなく学校内での学童クラブの設置を早急にすすめること。

◆**教員確保**　昨年のように４月に教員が欠員のまま新学期スタートという事態をうまないよう、東京都に教員の確保を確実に行うよう強く求めること。区としても独自に非常勤講師の採用をすすめるなど教育課程に支障がないようにすること。

◆**感震ブレーカーの設置推進**　都が昨年発表した首都直下地震の新たな被害想定で推奨されて、23区中12区で実施されている「感震ブレーカー」の設置費助成を行うこと。

◆**樹木の保護育成**　街路樹や公園、公開空地の樹木の健全な育成を指導するなど、既存の大木を大切にし、樹冠被覆率を高めること。

晴海の新たな２つの小学校 学年で分ける計画は再検討を

晴海選手村跡地のマンション群「晴海フラッグ」のまちびらきに合わせ、晴海５丁目では2024年４月開校に向け、晴海西小学校（仮称）の建設がすすめられています。

そんな中、区が確保していた晴海４丁目の用地にも、児童数の増加を見込み2026年着工で小学校を建設する整備計画が、12月７日の区民文教委員会で報告されました。

▼晴海西小学校本校舎（４年生～６年生）
▼晴海西小学校第二校舎（１年生～３年生）

と、学年によって分ける計画となっていますが、小学校のあり方が根本から問われる問題です。

予算要望書の中では、幅広い角度から再検討し、拙速に計画をすすめないことを求めました。